

都道府県別賞一等

自分らしい人生を歩むために

鳥取県 鳥取大学附属中学校 三学年

河崎 優良

生命保険、まだ僕には関係ないな。働くようになったら、毎月きちんと貯金をして、そうしたら困ることはない。これが僕の思ってきたことだ。入院や治療となれば、高額療養費制度も使える。毎月払う生命保険は損をしている気がする。とさえ思っていた。

先日、学校で生命保険についての説明が書いてある冊子をもらった。家に持って帰り、テーブルの上に置いて着替えをしていると、妹が言った。

「お兄ちゃん、生命保険って入ったほうがいいんだね。」

いったい何を妹は言い出したのだと、僕は思った。妹のいる部屋に戻ると、妹は僕が学校でもらってきた冊子を眺めていた。何か答えようと思ったが、そういえば生命保険のこと詳しく知らないなと思った僕は、とりあえずこの冊子を読んでみることにした。

これからの将来、生きていくためにはお金が必要。たしかにそうだな、でも、働いたら解決できるな。病気になったらどうするか、なるまでに貯金しておこう。でも貯金がしつかりできる前に何かあったらどうするか……。

そんなときは、どうしよう。急に僕は不安になった。もしものことが、想定していないときに起きたらどうするか、いい案が浮かばない。そんな自問自答を繰り返していると妹と母が話している声が聞こえてきた。

「体調が悪くなったりするだけでも、今何かあったらどうしようって色々考えるよ。不安になる。例えば入院したり、治療したり、しないといけなくなったから、みんなの学校やこれからにも影響してしまうし。みんながやりたいことができなくなるかもしれない。そんな時に、せめてお金の心配はせずにいられるほうがいいと思うよ。」

と母が話していた。そうか、いつくるかわからないもしもの時のことだから、どこかまだ僕には現実味がなくて、心のどこかで起こらないのではないかと思っているのかもしれない。

でも、いつ何が起こるかわからないからこそ、そういう時にも心配なく過ごせるように、自分も家族も幸せな生活が続けられるように、備えは必要なのだ。今までは、あまり想像をすることも考えることもなかったが、きちんと知り、理解することでもしもの時の備えをしていく必要があることを実感した。何も備えずに生きていくと考えると、これからの将来が不安に埋め尽くされそうな

第61回中学生作文コンクール

怖さを感じる。僕の未来が、そんな不安や怖さとともにあるなんて、僕は絶対に嫌だ。だからこそ、生命保険や、社会の仕組みを正しく理解し、何かが起こっても、そのことに振り回されず、自分らしい人生を歩んでいくことができるように、備えて生きていこうと思う。